

平成30年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

研究課題名	環境中親電子物質エクスポソームとそれを制御する活性イオウ分子
研究代表者	熊谷 嘉人 (筑波大学・医学医療系・教授) ※平成30年7月末現在
研究期間	平成30年度～平成34年度
コメント	<p>本研究は、ヒトに影響する様々な化学物質の中でも親電子性化学物質に対する適応応答システムの実態解明を目指すものである。センタータンパク質の化学修飾の増加により応答分子の変動などが相乗的に生じるのか、また、環境中の親電子物質のイオウ付加体は体内でどのように代謝され、どのように体外に排泄されるのかといった課題は、学術的な重要性・妥当性が極めて高い。</p> <p>また、応募者らは、これまでも活性イオウ分子との相互作用に着目し、体内動態、毒性発現機構の研究において着実に研究成果を上げてきており、高い研究遂行能力が認められる。</p>